

巻 論

もはや日本列島はシカだらけです。農作物被害額が大きいのは、まず北海道。2人位以降には、長野、兵庫、滋賀、岩手と「続き被害報告がないのはわずか8県です(平成23年度)。食害に泣き、捕獲に泣き、始末に泣く。わが国が野生動物と対峙する力を軽んじてきた顛末です。

ところで、昨今、「シカ利活用」のトップランナーは「釧路」と評されていることを「存じて」しようか。12年前、はからずもエゾシカ肉を研究することになった私は、釧路の目まぐるしい変

化をすく近くで観察してきました。振り返ってみると、とびきり衛生的な肉を生産する一番手の施設が新設された。小中学校の給食で繰り返し提供されるようになった。FMが専門番組の放送を始めた。およそ30もの

さらなるシカ利活用を

あす「みんなでエゾシ会議」

飲食店で食べられるようになった。食品小売店でいつでも買えるようになったなど、どれもが先進地とされるゆえんです。

農水省告示第254号には、「国及び地方公共団体は、捕獲した鳥獣を地域資源として捉

え、安全性を確保しつつ、肉等の加工、販売等を通じて地域の活性化につながる取組を推進する」とあります。捕獲されたシカに対して私たちにできることとは食へることなのです。釧路で毎年開かれるシンポジウム

全日空ホテル楡金氏、エゾシカ協会井田氏で、各領域の第一線で活躍している方々です。講演や対談の中で、現状、課題、調理法などが平易に解説されます。先着250人には、特製コロッケ引換券、部位別レシビ集、木製小物2点をプレゼントします。定刻までに入場された方には、各部位が当たる抽選会の参加券を差し上げます。

23日土曜午後11時4時30分。開場12時30分。釧路市観光国際交流センター階大ホール。入場無料、申し込み不要。(岡本 匡代)

図11 事前の記事

エゾシカ肉もっと食べよう



23日に釧路でシンポジウム

人懐こいシカの共存。釧路市と農水省の共同主催で、エゾシカ肉を食って減らそうというシンポジウム(第3回)もつと食べよう。このシンポジウムは、エゾシカ肉の食文化を推進する目的で開催される。また、エゾシカ肉を食って減らそうというシンポジウム(第3回)もつと食べよう。このシンポジウムは、エゾシカ肉の食文化を推進する目的で開催される。

レシビ集に掲載されているエゾシカ料理

北海道新聞夕刊 2013年2月19日(火) 8面

シカ食べて減らそう

23日みんなでエゾシ会議

エゾシカ肉を食って減らそうというシンポジウム(第3回)もつと食べよう。このシンポジウムは、エゾシカ肉の食文化を推進する目的で開催される。また、エゾシカ肉を食って減らそうというシンポジウム(第3回)もつと食べよう。このシンポジウムは、エゾシカ肉の食文化を推進する目的で開催される。



レシビ集に掲載されているエゾシカ料理

釧路新聞 2013年2月21日(木) 14面

釧路新聞 2013年2月22日(金) 3面